



北海学園大学出版会



しまふくろう新書 003

シマフクロウ 家族の物語

著者 早矢仕 有子 (工学部教授)

新書 208 ページ

発行日 2022 年 3 月 31 日

ISBN 978-4-910236-05-6 C0245

定価 1,100 円 (本体 1,000 円 + 税)

【内容紹介】

あるシマフクロウの家族を 32 年間、 見守り続けた研究者の「汗と涙の記録」。

1987 年春、〈ひよんなことから〉シマフクロウを研究することになった著者は、指導教官の「いい調査地があるんだよ」の一言で、大学生ながら身一つで調査地近くの集落に移り住み、廃車のワゴン車を「観察小屋」にしてシマフクロウの観察を始める。

以来、2019 年に至るまでの 32 年間、あるシマフクロウの家族の運命を見守り続けた記録が本書である。〈三十年以上生きた個体もあれば、巣立った途端に捕食された短い生命もあった〉。そこには、これまでほとんど知られてこなかったシマフクロウたちの神秘的な生活が、あくまで冷静な筆致で丹念に綴られている。

一方で、シマフクロウを見守り続けることは、その暮らす森を守っていくことでもある。時には森林管理をめぐる関係各所と議論を闘わせ、時にはシマフクロウでビジネスをしようとする人々にも、我慢強く理解を求めなければならない。野生動物の保護において人間の手をどこまで加えるべきなのか、シマフクロウという貴重な種の繁栄のために何ができるのか。

本書はシマフクロウに生涯を捧げた一人の研究者の「葛藤と奮闘の記録」でもある。

【著者紹介】

早矢仕 有子 (はやし ゆうこ)

大阪府池田市出身。北海道大学大学院農学研究科博士後期課程単位取得退学。博士 (農学)。札幌大学法学部教授などを経て、2017 年から北海学園大学工学部教授。専門分野は鳥類保全学。主な著書に『日本の希少鳥類を守る』(分担執筆, 京都大学学術出版会)、『野生動物の餌付け問題』(分担執筆, 地人書館) など。